

水道事業に係る住民・企業説明会の結果について

1 開催日及び参加者数

開催日	開催会場	開催時間	参加者数
令和6年10月17日(木)	ふれあい交流館ゆうホール 2階交流ホール	19:00~20:00	6人
令和6年10月19日(土)	久御山町役場 5階コンベンションホール	10:30~11:30	6人
合 計			12人

2 参加者情報

(1) 参加者種別

開催日	種別	個人	法人	不明 (回答なし)	合計
	令和6年10月17日		6人	0人	0人
令和6年10月19日		4人	2人	0人	6人
合 計		10人	2人	0人	12人

(2) 参加者年齢

開催日	年齢	20代	30代	40代	50代	60歳 以上	回答 なし	合計
	令和6年10月17日		1人	0人	2人	2人	0人	1人
令和6年10月19日		0人	0人	0人	2人	4人	0人	6人
合 計		1人	0人	2人	4人	4人	1人	12人

(3) お住まいの地区（事業所の所在地）

10月17日	大橋辺	北川顔	藤和田	島田	坊之池	中島	西一口	東一口	相島	森
	0人	0人	0人	4人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	野村	佐山	佐古	林	市田	田井	下津屋	栄	不明	合計
	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	1人	6人
10月19日	大橋辺	北川顔	藤和田	島田	坊之池	中島	西一口	東一口	相島	森
	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	1人	0人	0人
	野村	佐山	佐古	林	市田	田井	下津屋	栄	不明	合計
	1人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	2人	1人	6人
合 計	大橋辺	北川顔	藤和田	島田	坊之池	中島	西一口	東一口	相島	森
	0人	0人	0人	4人	0人	0人	0人	1人	0人	0人
	野村	佐山	佐古	林	市田	田井	下津屋	栄	不明	合計
	1人	0人	0人	0人	1人	1人	0人	2人	2人	12人

3 質疑応答

Q 1 町は地方交付税（普通交付税）の不交付団体だが、交付団体になり交付税をもらえれば、水道料金がもっと抑えられるのではないか。
A 1 水道事業は、「受益者負担」の原則に則った「独立採算制」により経営しなければならず、事業に必要な経費は、主に事業による収入である水道料金でまかなわなければなりません。一部、一般会計繰入金等の例外があり、本町水道事業では、総務省が示す繰出基準に沿って、一般会計から繰入れを行っております。基準に沿った繰入れは交付税の算定基礎となりますが、基準外の繰入れは算定基礎とならないため、交付税を水道料金の抑制に使用することはできないと考えています。
Q 2 給水人口・有収水量の予測では、みなくるタウン等も含めて検討しているのか。
A 2 久御山町水道事業ビジョン（第2次）を策定するにあたり、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）」を基に予測した結果、本町の給水人口は、今後も減少傾向で推移する見通しで、有収水量も、給水人口の減少に伴い減少傾向で推移すると見込んでいます。同研究所の推計にもいくつかのパターンがありますが、その中で社会移動封鎖型という転出入は均衡が図れるものとして推計した、比較的緩やかな減少傾向の推計を採用することで、みなくるタウンを初めとした町の施策との整合を図っています。一方で、水道事業では経営の安全性という観点から、町の人口推計よりは少し厳しい予測をしています。
Q 3 水道事業の沿革で、第3次拡張時に給水人口22,000人と計画し、施設整備を行っているが、施設が過大となっており、水需要と乖離がある。この問題はどのように解決するのか。
A 3 第3次拡張事業では、当時の給水量の増加に対応するため、給水人口22,000人、計画1日最大給水量18,000 m^3 とし、第2浄水場などの整備を計画しましたが、給水量の減少に伴い、現在は事業を休止し、現時点の施設能力は15,200 m^3 となっています。水需要との乖離の大きな原因は、京都府営水道の建設負担水量が11,200 m^3 であるためですが、現在、京都府と受水市町で建設負担水量のあり方の検討を進めており、見直しが行われれば、施設能力と水需要との乖離が縮小すると考えています。また、ビジョンの策定時に、北浦配水場の休廃止を検討し、その経費削減効果も含めて今回の料金改定率が、予定していた16.9%に抑制できています。
Q 4 自己水と府営水をブレンドしているが、給水原価に占める自己水の原価と府営水の原価はいくらか。
A 4 原水・浄水に係る原価は、令和5年度実績で1立方メートル当たり137.48円となっていますが、それを厳密に自己水の原価と府営水の原価に切り分けることは困難です。ランニングコストとしては、自己水の方が安いと考えていますが、府営水道料金に建設負担料金と使用料金があるように、自己水についても、本町施設に係る維持管理費用があるため、単純に比較はできません。そうしたことも考慮した上で、本町水道事業では、できる限り経費を抑えて効率の良い経営に努めています。

4 アンケート結果

(1) アンケート回答数

参加者 12 人中アンケートに回答いただいた参加者 12 人

(2) 「Q 1 説明会の内容をご理解いただけましたか。」に対する回答

「理解できた」と回答した参加者は 10 人、「どちらとも言えない」が 1 人、「理解できなかった」が 1 人となりました。

(3) 「Q 2 どの内容をご理解いただけなかったでしょうか。」に対する回答

Q 1 に「理解できなかった」と回答した参加者の回答は、「水道事業の現状と課題」、「これからの水道事業」、「公営企業会計の仕組みと水道料金の算定方法」、「久御山町上下水道事業経営審議会での検討結果」、「料金改定の内容」となりました。

(4) 「Q 3 説明会の内容にご納得いただけましたか。」に対する回答

「納得できた」と回答した参加者は 11 人、「納得できなかった」は 1 人（法人 1 人）となりました。

(5) 「Q 4 どのような点にご納得いただけなかったか、詳しくお聞かせください。」に対する回答と町の見解（その他お気づきの点の内容を含む。）

【1 人目（個人・50 歳代）】

- ・ 数値だけを見ると、周辺市町より金額が高いことがわからない。

〈町の見解〉

- ・ 本町では、既に浄水施設・配水池の耐震化を完了し、また現在は、水道事業ビジョン（第 2 次）に基づき、重要管路の耐震化を計画的に推進し、加えて、水道料金体系についても、算定要領に基づき、見直しを徐々に進めていることから、府内比較で 14 番目となったものと考えています。

【2 人目（個人・60 歳以上）】

- ・ 参加者が少なくて残念でしたが、わかりやすいと思いました。水の原価に対する参加者からの質問は的確であったと思います。住民として独立採算制というのがなぜ必要なのか、ライフラインなのにと疑問を持つ方もいるのではと思いました。

〈町の見解〉

- ・ 上下水道事業経営審議会からの答申の附帯意見にもありましたとおり、料金改定の際だけではなく、日頃から使用者との双方向のコミュニケー

ションを確保し、様々な疑問を解消できるように広報及び広聴に努めるとともに、「みんなで支えるくみやま水道」の意識醸成に努めてまいります。

【3人目（個人・40歳代）】

- ・今後の水道事業を経営していくために、水道料金改定が必要な仕組みが理解できた。

〈町の見解〉

- ・料金改定については、使用者のご理解とご協力が不可欠であるため、引き続き、多様な情報発信ツール等を活用し、分かりやすくきめ細やかな広報及び広聴に努めてまいります。